



シリーズ
タンチョウ
Vol. 353

鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリ

吉田 裕志

〒085-1205 鶴居村中雪裡南 ☎64-2620/FAX64-2239

鶴居 タンチョウ

検索



タンチョウ給餌をしていて感じたこと

昨年の4月から鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリでタンチョウの保護に携わっている吉田と申します。この度、退職に伴い鶴居村を離れることとなりました。短い期間ではありましたが、鶴居村の皆様がずっと大切にしてこられたタンチョウの保護に関われたことをとても誇らしく思っています。退任の挨拶も兼ねてタンチョウの給餌をしていて感じたことをお伝えしたいと思います。

タンチョウの給餌をしていて一番強く感じたことは「タンチョウ一羽一羽が違う個性を持っていますごく面白いな」ということです。

タンチョウの給餌に関わる前までは、どのタンチョウも同じような特徴を持っていて、同じように動き、同じような生活スタイル持っているものだと思っていました。しかし、給餌を始めてみると、それらがまったく違うことが分かりました。例えば餌の採り方一つにしても、私が給餌をしに給餌場に入った時に、我先にと近づいてくるタンチョウや、警戒しつつも後ろから回り込んで餌を採るタンチョウ、給餌人が見えなくなってから餌を採るタンチョウなど、それぞれの性格によって全く違う行動をとっていました。餌を食べる場所にしても、いつも給餌場の中心で食べているタンチョウもいれば、他のタンチョウに邪魔をされないように、あえて人間が見ている柵に近いところで餌を食べるタンチョウもいます。

採餌行動以外のところでも、1日中給餌場にいるタンチョウと、給餌時間前後のみ現れてそれ以外は別の場所にいるタンチョウ。また、昨年度給餌場に迷い込んできて話題となったマナヅルとの関係性についても、仲良さそうにしているタンチョウと喧嘩ばかりしているタンチョウなど、どの行動をとってもそれぞれのタンチョウに個性がありました。当たり前ですが、「本当に1羽も同じタンチョウはいないんだな」と思うと同時に、「人間もタンチョウもそう変わりはないんだな」と思うようになりました。観察を続ければ続けるほどタンチョウごとの個性が見えてきて、それぞれの性格が分かることで、タンチョウへの愛着も日ごとに増していきました。特に昨年度は、日本国内のみならず、様々な国からタンチョウを見るために鶴居村を訪れる人たちがいました。タンチョウの個性あふれる様子も世界中の人々を惹きつけてやまない魅力の一つなのだと思います。



給餌をする吉田レンジャー

タンチョウに関わった期間は短いかもしれませんが、私ももうすっかりタンチョウに魅了されています。鶴居村を離れてしまいますが、この村でタンチョウに関わったことを誇りに、そして、また鶴居村に戻ってきてタンチョウと再会することを楽しみに、次の環境でも頑張っていきたいと思っています。